

## 要養護児童のためのグループホームにおける地域計画に関する研究 その3

## 一職員と地域との関わり

要養護児童 グループホーム 地域  
つきあい 勤務体制

正会員 ○石垣 文 \*1  
同 小野田泰明 \*2  
同 坂口 大洋 \*3

## 1. 研究の背景と目的

近年、要養護児童へのより良いケア・生活環境が提供できるひとつの形態として注目されるグループホーム<sup>註1)</sup>(以下、GHと略す)であるが、その特徴は、児童養護施設の本体施設に比較して小規模な集団で、地域との関わりを保ちながらの生活が行いやすい点にあるとされている。それらの特徴のうち、これまでGHに対する研究関心は生活集団の小規模化にのみ集まるきらいがあった。しかし、GHでの入所児童の発達や自立を支援するためには、地域のなかでの児童の養護や職員のあり方について考察される必要がある。そこで筆者らはGHと地域との関わりに着目してその実態を統計的に明らかにし、更にGHが地域を資源としながら入所児を育てている一端を把握してきた<sup>文1)</sup>。引き続き本稿では、GH職員と地域との関わり

実態を事例的に明らかにし、考察することを目的とする。

## 2. 調査の方法

職員と地域<sup>註2)</sup>との関わりを具体的に把握するため、職員の「つきあい」の実態を調査した(表1)。対象施設は、地域との関わりに影響を及ぼすとされる「職員の勤務体制」と「立地環境」<sup>文1)</sup>を考慮して選定し、比較のために、GHを有する本体施設の職員への調査も行った(表2)。

## 3. 職員の有するつきあい

職員がつきあう人物をその所属ごとに整理したものが表3である。まず全体的な傾向としては、施設・法人と福祉行政、学校教職員に属する人が多く挙げられている。次に相手の属性とつきあいの程度に着目することで、学校、当該施設・法人と福祉行政といった組織に属する相手を中心としたつきあい(組織濃密型)と、そうした組織のみでなく学校の父兄や近隣住民なども含めた広範にわたるつきあい(広範型、広範濃密型、広範緩やか型)を有するケースに分けられた。

特に勤務体制に着目すると、通勤交替制のkホーム職員は組織濃密型のつきあいである。近隣住民とつきあう重要性を意識しながらも、勤務時間内で6名の児童をケアしつつそれを実現する難しさ、またGH周辺の子どもの少なさ(表2)が確認された。一方のsホームでは職員が子供会の役員を担うことにより、広範型のつきあいを築いていたが、そうした活動は職員の超過勤務により初めて実現可能となることが確認された。他方、住み込み制GHではつきあう相手は広範となる傾向がみられ、特に夫婦住み込み型は広範濃密型に分類された。また、T園本体施設は通勤交替制であるが、職員のつきあいは組織濃密型に分類され

表1. 回答者の属性

A. グループホームにおける事例調査	
対象:	7つのGHの職員
期間:	2006年10月~2007年2月
内容:	以下の項目のヒアリング
	1) 職員の勤務体制、2) 建物の概要と使われ方、3) 児童および職員の活動範囲、4) つきあいの実態(「①子どものこと、自分のこと等をかなり踏み込んで相談したり、助け合えるようなつきあい」、「②子どものことや自分のこと等を(深刻な問題でなければ) 話せるようなつきあい」、「③あまり悪苦しくなく話し合えるようなつきあい」、「④会ったときにあいさつする程度のつきあい」)の四段階に分け、それぞれに該当する人の名前を記入(多い場合は「多数」と回答)。また当該者の属性が重複する場合は、双方の属性を記入した上で、回答者の認識に近い方に分類した。5) 本体施設・他の分園との関係、6) GHが施設の敷地外にあることの児童・職員への影響、7) GHでの職員自身の変化、8) 今後の課題や要望
B. 本体施設における事例調査	
対象:	児童養護施設T園本体施設の職員
期間:	2007年9月
内容:	ヒアリング(調査Aのヒアリング項目のうち1, 3, 4, 8)

表2. 調査対象施設

※全国GHの平均値は、周辺1k㎡の人口総数が6,982人、年少人口割合が14.0%である<sup>文1,2)</sup>。

		kホーム	sホーム	nbホーム	ncホーム	tホーム	jホーム	hホーム	
本体施設名		K園	S園	N園	N園	T園	J園	H園	
開設年		2003年	2005年	2002年	2005年	2000年	1997年	2001年	
勤務形態		通勤交替		住み込み			夫婦住み込み		
立地環境	周辺1k㎡の人口総数	10,903人	2,654人	1,025人	1,198人	8,692人	11,651人	925人	
	周辺1k㎡の年少人口割合	10.4%	13.3%	16.7%	18.0%	12.4%	15.2%	13.2%	
入所児童	人数	6(男2,女4)	6(男3,女3)	6(男1,女5)	6(男3,女3)	6(男2,女4)	6(女6)	6(男3,女3)	
	年齢	3歳児~高1	小1~高2	小4~高1	小3~中3	5歳児~高1	小1~中3	小3~中2	
職員	人数	4	3	2	2	3	3	4	
	性別	男女	男女	女	女	男女	男女	男女	
	居住地	GHに住み込み	0	0	1	2	1	2	2
		中学校区内	0	0	0	0	1	1	0
		中学校区外	4	3	1	0	1	0	2
	配置換え頻度	4人/年	0人/年	0.6人/年	1人/年	0人/年	0.7人/年	0.2人/年	
専任最長勤務職員の年齢	20代	30代	30代	20代	30代	40代	50代		
本体施設との関係	距離	2~2.5km	3km以上	3km以上	2.5~3km	0~0.5km	0~0.5km	3km以上	
	学区の同異	小学同, 中学異	異	異	同	同	同	小学異, 中学同	

A study of Children's Home for Community Welfare Planning 3  
-the relation between the staff and the community

ISHIGAKI Aya, ONODA Yasuaki,  
SAKAGUCHI Taiyo

た。本体施設の勤務では近隣住民が身近に感じられないこと、職員自身の若さから学校父兄と関わりの難しさを感じることや年間を通じた児童の入退所により施設内の児童集団の安定を保つことにまずエネルギーが割かれる事等が要因としてあげられた。

4. つきあいの築かれ方とその特色

これまで確認された職員のつきあいであるが、その築かれ方には職員、入所児童それぞれを介したものがあ。児童を介するつきあいは、学校や子供会の父兄、スポーツ少年団等の活動を通じて生じることが多い。他方、職員を介するものは、施設・法人の関係者やその人を經由して広がるものか、職員自身の家族や知人というケースが把握された。後者の事例として、nc ホームを取り上げたい(図1)。GH開設より一年程度にもかかわらずつきあいの多いnciさんは、それを「地域に恵まれた」ためと考えていた。実際、施設長はホームの開設にあたり、自身とのつきあいやN園職員、ボランティアが数名暮らす地区を意図的に選定していたことが確認された。

次いで、職員の有するつきあいがどのような役割を果たしているかを、t ホームの事例(図2)を通じて確認したい。近隣のTa家の子どもは、ホームの入所児と同級生であった。それに加え、t ホームとTa家はスポーツ少年団や子供会等の活動を共有することでつきあいが深まり、また周囲の子育て家庭の少なさ(表2)から、互いに子育て相談をする間柄となってきた。さらにTa家のグループホームへの理解が深まるにつれ、第三者へそれとなくホームの説明をするなどスティグマの解消ともよべる役割を果たすようになってきた。一方、町内会役員としても近隣の事情を把握するtiさんは、児童相談所職員と連携を図りながら、子育て家庭の見守りの役割も果たしていることが確認された。

5. まとめ

以上、本研究ではGH職員の有するつきあいとその特色が把握されたが、そうしたつきあいは、地理的な条件に付随するもの(学校関係、近隣住民など)と必ずしも付随しないもの(福祉行政関係者、ボランティア、職員の家族・知人)から多層的に構成されることも示された。また、職員からは「あいさつする程度のつきあい」の重要性も指摘され、今後はつきあいの深浅のみを尺度としない研究視点が必要と考えられる。また、児童の地域との関わりについて明らかにし、GHの果たす役割や意義を明らかにすることも必要である。

調査にご協力いただいた施設職員の方々にこの場をかりてお礼申し上げます。なお、本研究は住宅総合研究財団による補助(研究NO.0618)を受けたものです。

註1) 本研究ではグループホームを「児童養護施設を運営する法人が運営し」かつ「地域小規模児童養護施設、児童養護施設分園型自活訓練事業、自治体が独自に定めたもの、法人が独自に展開

- \*1 早稲田大学人間科学学術院 助手・博士(工学)
- \*2 東北大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)
- \*3 東北大学大学院工学研究科 助教・博士(工学)

するもの、のいずれか」と定義して調査を行った。2) 本研究では地域の範囲を限定せずに調査を行った。

参考文献1) 坂口大洋ら「要養護児童のためのグループホームにおける地域計画に関する研究その1」石垣文ら「要養護児童のためのグループホームにおける地域計画に関する研究その2」日本建築学会大会梗概集E1, p.167-170, 2007 2) 財団法人日本統計協会: 地域メッシュ統計(平成12年 国勢調査(その1 人口、世帯、産業)), <http://www.jstat.or.jp/product/mesh/quick.html>

表3. つきあいの類型

	GH名	担当者	性別	年齢	つきあいの媒介者						つきあいの型		
					教職員	学校父兄	スポーツ少年団	近隣	施設・法人	福祉行政		ボランティア	職員の家族
通勤交替制	kホーム	ki	女	20代									相隣養護型
	sホーム	si	男	30代									広範型
住み込み制	nbホーム	nbj	男	20代									相隣養護型
	ncホーム	nci	女	30代									広範型
夫婦生活あり	tiホーム	tij	男	30代									広範型
	trホーム	trj	女	40代									広範型
trホーム	trj	男	50代									広範型	
													広範型
trホーム	trj	女	50代										相隣養護型
T園	Tj	男	30代										相隣養護型
T園	Tj	女	20代										相隣養護型

表3は、つきあいの媒介者について、つきあいの深さやその媒介者が何を担っているかを併記したものである。色分けは以下の通り。■: 子どものこと、自分のこと等がかなり絡み込んで知識となり、抱け合えるような付き合い。■: 子どものことや自分のこと等を(深層に開通できれば)訪ねるような付き合い。□: あまり頻りに話さなくとも話せるような付き合い。

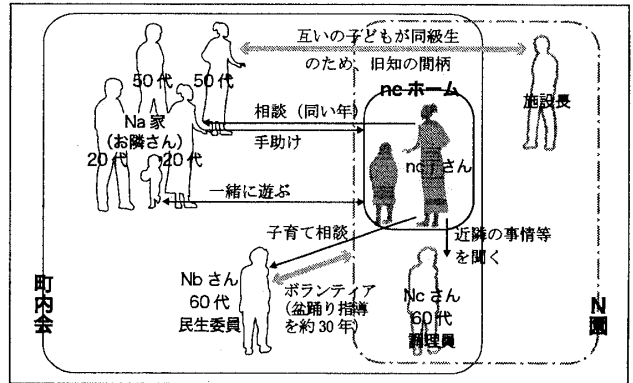


図1. 職員を介して築かれたつきあいの事例

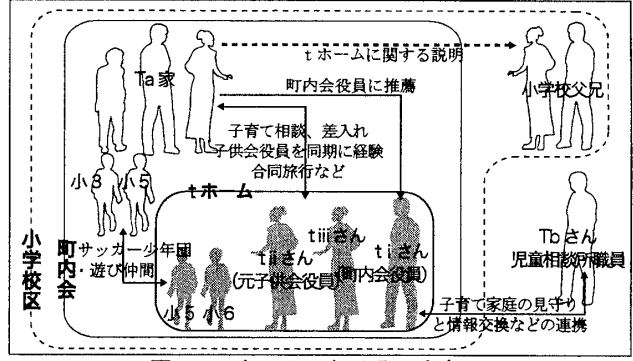


図2. t ホームにおけるつきあい

Research Asso., School of Human Sciences, Waseda University, Dr.Eng.  
 Prof., Graduate School of Engineering, Tohoku University, Dr.Eng.  
 Assistant Prof., Graduate School of Engineering, Tohoku University, Dr.Eng.